

はじめに

本学は2024年度に、公益財団法人大学基準協会による認証評価を受審し、2025年3月末に「適合」認定を受けました。2024年度の自己点検・評価活動は、上記の認証評価にかかわる実地調査の受け入れと並行しながら、松前義昭前学長（現総長・理事長）のリーダーシップのもとで実施したため、2021年度以降に本学が実施してきた様々な組織・制度改革の成果を確認できる良い機会となりました。

本学では2022年度に全国のキャンパスで新学部の設置や改組を行い、新しい教育課程をスタートしました。2024年度は、新しい組織体制での教育研究活動も3年目に入り、また、新型コロナウイルス感染症の流行を防ぐための活動自粛もなくなり、多彩な取り組みが各キャンパスで行われました。まず、グローバルシチズンカレッジに所属する政治経済、経営、国際、観光、情報通信学部では、いよいよ3年生対象の授業が品川キャンパスで始まりました。品川キャンパスでは、ラーニングコモンズやミニ図書館の設置、コンビニエンスストアの開店など、キャンパスライフを充実させるための工夫もなされています。高輪という抜群の立地をいかし、グローバル企業や、政府機関、各国大使館等とも連携した学修・研究活動を期待しています。

6月には、一般財団法人日本語教育振興協会の主催する「日本語学校教育研究大会」の2024年度「日本留学 AWARDS」において、本学が東日本地区・私立大学理工系部門の大賞を受賞しました。本学では、世界各国から進学してきた留学生が学生生活に適応し、しっかりと学修を進められるよう、教職員や学生チューターによる支援を行っており、そのことが評価された結果と言えます。

伊勢原キャンパスでは、1974年に創設された医学部と医学部附属病院が、創設50周年を迎えました。2025年2月に創設50周年記念式典を開催し、これまでの成果を祝うとともに、これからの50周年に向けて決意を新たにしました。

静岡キャンパスでは、海洋学部の研究活動や、課外活動を紹介する展示室が6月にオープンしました。展示室の名称は、海洋学部の学生から募集した案のなかから、「TOKATEN(トカテン)」に決定しました。

8月には、札幌のエスコンフィールド HOKKAIDO で、「東海大学 DAY」として、湘南・札幌キャンパスの学生と教職員が中心となり、プロ野球公式試合の運営サポートと様々な企画を実施しました。

熊本キャンパス・阿蘇くまもと臨空キャンパスでも、農学部の学生たちがキャンパスで養育した黒豚を販売したり、文理融合学部の学生たちが湯島での地域猫活動の支援を行うなど、地域コミュニティと連携した活動を行いながら、学びを深めています。

2024年度は、国際交流や海外での活動も活発に行いました。海外からは、フィンランドの科学文化大臣 Sari Multala さんをはじめ、たくさんのお客様が本学を訪問されました。また11月には、ブルガリアのソフィア大学に、本学の創立者である松前重義博士の胸像が設置され、本学とソフィア大学間の教育研究活動の相互交流・連携を推進する協定も結びました。

研究面では、文部科学省の「オープンアクセス加速化事業」に採択され、研究成果の即時無料

公開に向けた事業を開始しました。教職協働で、学術誌への論文掲載料(APC)支援や、研究データの収載・管理・公開システムの構築を始めています。

大学のガバナンス体制も、毎年改善を図っています。湘南キャンパスにはキャンパスライフセンター(CLC)を設置し、カレッジオフィスと協力しながら、学生の課外活動や就職活動の支援、障がい学生支援、学生と教職員の健康推進の取り組みを行っています。また、全学的な内部質保証体制についても、年報本文に記載している通り、学長が議長となる学長室会議を全学内部質保証推進組織と位置付け、内部質保証体制図や方針の改訂を行いました。この体制のもと、2025 年度も引き続き教学マネジメントの実質化を図っていく所存です。

最後になりましたが、本学の教授、学長、理事長、総長を長く務め、大学と学園の運営に尽力された松前達郎博士が、2024 年9月8日に逝去されました。松前達郎前総長は、大学・学園の国際交流活動も積極的に進められました。本学はその功績を受け継ぎ、活発な教育研究活動・国際連携活動により一層取り組む必要があります。関係各位におかれましては、ぜひ本報告書をご一読いただき、大学の教育研究活動を振り返り、改善・向上のためにご活用いただくようお願いいたします。

2025 年10月

東海大学学長
木村 英樹